

A COMPANION
VOLUME

No. 0

Stacktube

how to read, not how to operate



issue zero,
read me first

Stacktube の読み方

動画は流れていくけれど、知識は、積み上がる。

COMPANION

1.1

2026・07

A COMPANION VOLUME ・ No. 0

Stacktube の読み方

動画は流れていくけれど、知識は、積み上がる。

COMPANION

1.1

2026 ・ 07

stacktube.io ・ unstackd.io

目次

プロローグ — ブックマーク300件、開き直したのは2件	4
第1章 — 最初のノートが届く日	6
第2章 — 流れを自動に任せる	9
第3章 — ノートの住む場所を決める	12
第4章 — 積み上がりが見え始めるとき	15
第5章 — 忘れた頃に、また出会う	18
第6章 — ひと月の終わりに、1冊の本	21
付録 — リファレンス	24
エピローグ — 作った人のノート	30

プロローグ — ブックマーク300件、開き直したのは2件

ある日、数えてみました。YouTube の「後で見る」に312本。ブラウザのブックマークに数十件。メモアプリに貼ったリンクがさらにひと束。どれも「これは絶対に見なければ」と思って保存したものでした。

そのうち、開き直したのは2件でした。

保存した瞬間は、確かに学んでいる感覚がありました。良い講義を見つけ、良い解説を見つけ、失わないようにどこかへ入れておいたのですから。けれど1年が経って残っていたのは、リストであって知識ではありませんでした。動画は本と違って、本棚に収まってくれません。流れていきます。半分だけ覚えているタイトルと、「あれ、どこかで見たはずなのに」という一文だけを残して。

Stacktube は、あの312本から始まりました。動画をもっと見るための道具ではなく、見たものが積み上がるための道具です。チャンネルを見守り、新しい動画を解析して構造化されたノートに変え、そのノートをあなたの決めた場所 — メール、Obsidian、Drive、Kindle — へ届けるサービスです。そして1ヶ月が経つと、それらのノートが1冊の本になって戻ってきます。

この本はマニュアルではありません。ボタンの位置は、画面のほうがよく知っています。代わりにこの本には、ボタンの裏側にあるものを書きました — なぜタイムラインが左にあるのか、なぜ無料プラン

の自動解析が週1回なのか、なぜ月刊の合本には広告も要約もないのか。道具は作った人の決定でできていて、その決定を知って使う道具は、長持ちします。

月刊ムック誌シリーズの別冊、0号です。毎月1日に届く本誌と同じ装丁にしました。15分で読み終わります。その15分が、312本のリストを二度と作らせないはずです。

— unstackd.io

第1章 — 最初のノートが届く日

Starter

チャンネルをひとつ登録した翌朝、メールボックスにノートが1枚届いています。昨夜そのチャンネルに上がった38分の動画です。あなたはまだ、その動画を見ていません。それなのにノートを2分ほど眺めただけで、この動画が何を主張し、根拠は何で、どの区間が核心なのかを、もう知っています。

この瞬間が Stacktube のすべてです。残りはすべて、この瞬間を繰り返し可能にするための装置です。

動画で学ぶことの摩擦は単純です。38分の動画の中であなたに必要なのはたいてい6分ぶんなのに、その6分がどこにあるかは38分を全部見ないとわからない、ということ。だから私たちは再生速度を上げ、シークバーをなぞり、コメント欄で「3:42 が核心」を探します。そうやって見ても、1週間後に残るのは「見た」という記憶だけです。メモを取ればましですが、そのメモは動画から切り離されたまま、メモアプリのどこかでまた流れていきます。

だからノートの構造を決めるとき、いくつかのことを意図的に決めました。

タイムラインを左に置いた理由。 ノートを開くと、チャプター目次が左側に固定されてついてきます。ドキュメントツール — Notion、Linear — が磨いてきた定位置であり、目が「いま、どこを読んでいるか」を見失わない位置です。動画プレイヤーのシークバー

を真似る代わりに、読み物の文法に従いました。ノートは動画の縮小版ではなく、独立した読み物であるべきだと考えたからです。(モバイルではハンバーガーボタンの中に置れます。)

動画ごとに違う型を使う理由。 すべての動画を同じ型に流し込めば、それはただの要約機です。チュートリアル、ニュース、フレームワーク、インタビュー、振り返り・エッセイ — Stacktube はまず動画のタイプを見極め、タイプに合った構造でノートを組みます。チュートリアルなら手順が、インタビューなら発言と文脈が、講義なら概念の定義と例が骨格になります。

蛍光ペンを節約して使う理由。 AI が重要と判断した文には蛍光ペンが引かれています。ただし、控えめに。全部に線が引かれたページは、何も引かれていないページと同じですから。

場面を文の外に置かなかった理由。 ある種の知識は、文に移した瞬間に半分こぼれます — ホワイトボードに描いた図、流れるコード画面、一枚のチャート。だからノートには動画のサムネイルが一緒に載り、言葉に移すのが惜しい場面には 📌 マーカーが付きます。押すと YouTube のまさにその場面へ飛びます。タイムスタンプが「この区間を読め」なら、このマーカーは「この場面を見よ」です。文に収まりきれないもので、ノートに連れていてほしかったのです。

始め方は2つのうちどちらかです。チャンネルを登録する(ダッシュボード → チャンネル、`youtube.com/@チャンネル名` 形式の URL をそのまま貼り付け)か、動画を1本だけ直接解析する(URL 貼り付け → 解析)か。字幕のある60分以内の動画なら大丈夫です。同じ動画が二度処理されることはありません — video ID 基準で1回だけ。

ノートが届いたら、こう読んでみてください。① 左のタイムラインで全体の骨格を10秒で掴む。② 蛍光ペンの文だけをたどって一度下りる — これが2分の読解です。③ 深く入りたい区間があれば、本

文のタイムスタンプや 📺 マーカーを押す。YouTube のまさにその場面へジャンプします。動画を見るのはここからです — 全部ではなく、ノートが指したその区間だけ。

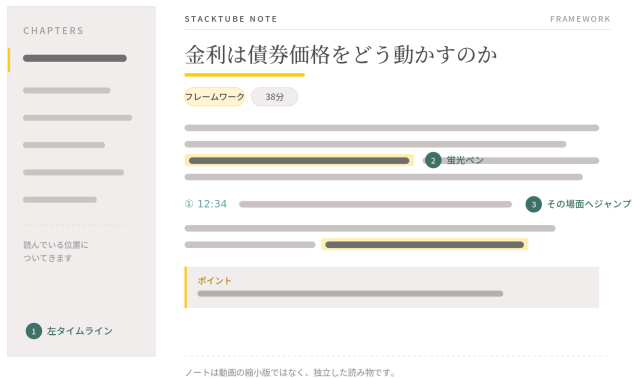


図1・ノートの構造 — タイムラインは左に、蛍光ペンは控えめに、タイムスタンプと 📺 マーカーはその場面へ。

✓儀式をひとつ。ノートが届いたら、動画よりも先にノートを開くこと。動画は、ノートが「ここは直接見る価値がある」と指したときだけ。

第2章 — 流れを自動に任せる

Starter / Pro

好きなチャンネルが動画を上げていたことを、2週間後に知った経験はないでしょうか。アルゴリズムは見せてくれず、通知はオンにしてあるものの多すぎて見なくなり。きちんと追いたいチャンネルほど更新が少なく、流れから消えていきます。

登録と通知は「見逃さないため」の道具に見えますが、実際には「いますぐ見ることを要求する道具です。通知を押した瞬間、時間がその場で持っていられます。押さなければ動画はフィードの下へ流れていく。見るか、失うか — 選択肢が2つしかない構造こそが、摩擦の正体です。

Stacktube のモニタリングは、3つ目の選択肢です。チャンネルを登録しておけば、新しい動画が上がるたびに解析が自動で走り、ノートが積み上がります。いますぐ見なくても、失うものはありません。

Starter の自動解析を週1回に絞った理由。正直に言うと、2つあります。1つ目はコストです。動画1本の解析には実際の AI コストがかかり、無料プランで全チャンネルを毎日回せば、サービスは長く続きません。無理な無料施策で1年後に消える道具よりも、持続可能な線引きを最初から引くほうを選びました。2つ目はリズムです。毎日届くノートは、無料ユーザーにとってもうひとつの通知ノイズになりがちです。週1回、1通の週間ダイジェストにまとめれば、「今週この

チャンネルから出たもの」をひと呼吸で読めます。制約から始まった設計が、結果としてより良い読書体験になったケースで、いまでもこの決定を気に入っています。

Pro からは毎日に狭まります。チャンネル数が増え(7つ)、月の解析量が増えると(50回)、1日単位の流れが意味を持ち始めるからです。

チャンネル登録は第1章と同じ — URL の貼り付けです。登録したチャンネルはプランに応じて自動でモニタリングされます。Starter はチャンネル1つ・週1回、Pro と Max は登録チャンネル全部・毎日です(Unlimited は周期を自分で決めます)。自動の対象は、登録後に新しく上がる動画です — 1日に複数本を上げるチャンネルでも、古い回まで漏れなく捕まえます。登録前からあった動画は一覧で「直接解析」バッジで区別され、好きなときに自分で回せます。新しいノートはダイジェストメールにまとまって届き、ダッシュボードには即座に積まれます。月の解析上限(Starter 10回 / Pro 50回 / Max 150回、Unlimited 無制限)は、解析が実際に実行された場合にのみ消費されます — 字幕なしでスキップされた動画はカウントされません。

ダイジェストの読み方のコツもひとつ。全部読もうとしないことです。まずタイトルとタイプの chip だけを眺めて、今週の1本だけを選ぶ。その1本のノートを最後まで読むほうが、5本を半分ずつ眺めるより多くが残ります。残りはどのみち Library に積まれていて、第4章で見るとおり、積まれたものは消えません。

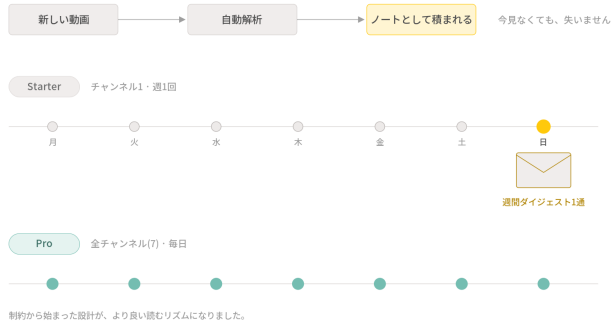


図2・ふたつのリズム — Starter は週に1通、Pro は毎日の流れ。

✓儀式をひとつ。ダイジェストが届く日に、5分だけ決めておくこと。その5分が、「全部見なければ」という負債感を、「選べばいい」という選択権に変えてくれます。

第3章 — ノートの住む場所を決める

Pro+ 中心

Obsidian をお使いの方なら、こんな場面です。朝 vault を開くと、昨日は無かったノートがフォルダに入っています。昨夜、登録チャンネルに上がった動画のノートです。frontmatter が整い、タグが付き、グラフビューに新しい点がひとつ浮かんでいます。あなたは何もしていません。

知識ツールには年季の入った嘘があります — 「あなたの知識を、私たちのアプリに集めましょう」。問題はその先です。アプリが有料化したら？ サービスが畳まれたら？ 10年後もそのアプリはあるでしょうか。良いノートが特定のサービスの中にしか住めないなら、そのノートの寿命はサービスの寿命と同じになります。保存ではなく、人質です。

だから Stacktube は逆方向に決めました。ノートの住む場所は、あなたが決めます。ウェブのダッシュボードは5つの行き先のひとつに過ぎません — メール、Google Drive、Dropbox、Kindle、そして Obsidian。

Obsidian 連携は公式コミュニティプラグイン(ディレクトリで「StackTube」を検索)で行います。設計原則はひとつでした — ロックインなし。ノートはYAML frontmatter 付きの、ごく普通の `.md` ファイルとして、あなたが選んだフォルダに書き込まれます。プラグインを消しても、たとえ Stacktube を離れても、ファイルはすべて

その場所に、読める状態のまま残ります。video ID 基準で重複なく書き込まれ、同期は途切れた地点から再開します。解析はすべてサーバー側で完結するので、プラグインは軽く、取得して書くことだけを行います。

キャプチャした場面さえ、あなたのものとして残す理由。最近のプラグイン(0.2.0)には、動画の一場面をノートに直接取り込む機能が加わりました — ホワイトボード、図表、アプリ画面のように、文字にするのが惜しい場面を。この画像は、あなたの vault にだけ保存されます。私たちのサーバーには上がりません。ノートも、ノートの中の場面も、すべてあなたの端末の中にあるのが正しいと考えたからです。ログインなしは、テキストだけの原則ではありません。

E-ink 端末のための決定もあります。画面で読むことと電子インクで読むことは、別の行為だからです。Kindle へは Send-to-Kindle で PDF が自動送信され、Boox と Supernote は端末の Drive/Dropbox 同期で自動受信します。reMarkable は公式の受信 API がいないため自動送信はできませんが、設定ページに3つの迂回路を案内してあります。

すべての連携は 設定 → 連携 から始まります(Starter はウェブ・メールのみ、その他の行き先は Pro から — 7日間の Pro トライアル中はすべて開きます)。Obsidian はプラグインのインストール → 設定で API キーを発行 → プラグインに貼り付け、の3ステップで終わります。Drive/Dropbox はボタン1つの OAuth 接続。Kindle は Send-to-Kindle アドレスの登録。手順の詳細は付録 D にまとめました。

ひとつだけお願いがあります — Obsidian への経路は、プラグインとクラウドフォルダ経由のうちどちらか一方だけにしてください。両方オンにすると、同じノートが二重に入ります。



サービスを離れても、ファイルはすべてその場所に残ります。

図3・ノートの住む5つの場所 — 行き先を決めるのは、あなたです。

✓儀式をひとつ。ノートの「本拠地」をひとつだけ決めること。2か所に積まれる知識は、結局どちらも信じられなくなります。

第4章 — 積み上がりが見え始めるとき

Pro+

6週間ほど経ったある日、Library を開きます。ノートが40枚ほど積まれています。Cluster タブを押すと、ノートたちがトピックごとの塊に並び直されるのですが — そこに、予定していなかった塊がひとつ見えます。交渉についてのノートが7枚。あなたは交渉を勉強しようと思った覚えはありません。それでも、この6週間のあなたは確かに、そちらへ惹かれていたのです。

積むことと、見せることは別です。この章は「見せる装置」たちの話です。

ノート40枚がただの時系列リストなら、それは知識ではなく、よく整理された保管箱です。保管箱の問題は、検索の仕方を知っているものしか取り出せないこと。「自分が何を集めてきたか」は検索ではわかりません — それは、構造が見せてくれるべきものです。

Library にタブを3つ置いた理由。 同じノートの山を、3つの視線で見ます。Timeline は時間 — いつ、何に惹かれたかの記録。Cluster はトピック — ノートたちが自然に集まってできる地図。Stack は蓄積 — どこが厚く積み上がりつつあるか。ひとつの並べ方では3つのどれもきちんと見えないので、画面を増やす代わりに、視線を増やしました。

トピック合成を週1回にした理由。 Pro から、1週間ぶんのノート
をトピック単位で読み直してまとめる合成が、週1回走ります。毎日
回さないのはコストの問題でもあります、トピックというものが1
日単位で変わる代物ではないからです。1週間は、「流れ」が「ト
ピック」に固まる最小単位だと判断しました。

インデックスをあなたの場所にも置く理由。 積み上がりが
Stacktube の中でしか見えないのなら、第3章の原則(ロックインな
し)に反します。だから Drive をお使いの方には `Stacktube_INDEX`
ドキュメントが、Obsidian をお使いの方には `00_Knowledge_Hub.md`
という Master MOC ファイルが、定期的に更新されます。あなたの
フォルダを散らかさないよう、インデックスは常に1ファイルだけ ー
増えるのは中身であって、ファイルではありません。

Library はサイドバーから開きます。最初は Timeline で流れを、
月に一度は Cluster で地図を見てください。ノートが少ないうち(20
枚以下)の Cluster は物足りないはずです ー 正常です。積もるほど良
くなる画面なので、本領は2ヶ月目からです。Drive 連携をオンにし
ていれば `Stacktube/index/` フォルダの `Stacktube_INDEX` が毎週更
新され、Obsidian なら vault の `00_Knowledge_Hub.md` が同じ役割を
担います。

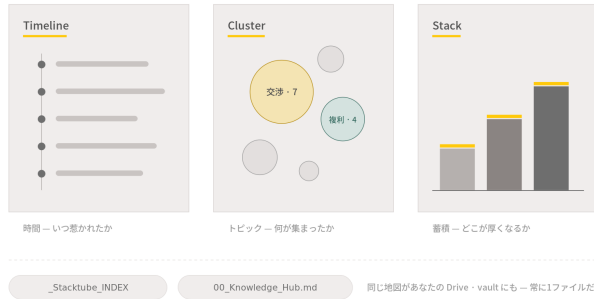


図4・同じノート、3つの視線 — そしてあなたの場所に置かれる、1つのインデックス。

✓ 儀式をひとつ。月に一度、Cluster タブを開くこと。探しに行くのではなく、見つけられに行くのです。

第5章 — 忘れた頃に、また出会う

全プラン (Resurface は Pro から)

いつものダイジェストをスクロールしていると、最後に見慣れないカードに出会います。「90日前、あなたはこのノートを読みました」。すっかり忘れていたタイトルです。けれどカードを開いた瞬間 — ああ、これだ。あのとき確かに重要だと思った内容が、いま取り組んでいることと、ぴたりと繋がっています。

保存の錯覚、というものがあります。保存した瞬間、私たちはそれを「手に入れた」と感じますが、再会しない知識は、手に入れたことになりません。そして人間は、自分から再会しに戻りません — 新しいもののほうが、いつだって輝いて見えるからです。保管箱が大きくなるほど、古いノートが読み直される確率はむしろ下がっていきます。

Resurface の間隔を 21 / 90 / 180 / 365 日にした理由。ノートがその齢になるたび、一度ずつあなたの前に戻ってきます。3週間は「最近だから覚えているもの」と「もう霞んでいるもの」が分かれる地点で、90日・180日・1年は、同じノートが違う意味で読み返されるのに十分な距離です。1年前のノートが戻ってきて、それでもまだ良いと思えるなら、それはあのときの流行ではなく、あなたの知識です。

通知ではなく、ダイジェストのカードで届ける理由。 再会のために専用のプッシュ通知を作ることもしました。やりませんでした。「古いノートを見ましょう」という通知は、3日で無視されるノイズになります。代わりに、どうせ開くダイジェストの末尾に、1枚ずつ挟んでおきます。再会は約束ではなく、すれ違いざまの出会いであるべきだと考えました。

探しに行く道も、もちろんあります。検索です。Pro からは、キーワードが正確に一致しなくても意味が近ければ見つけ出す Cross-video search が、全ノートを横断して働きます。「あれ、どこかで見たはず」の「あれ」さえ覚えていれば十分です。

Resurface に設定は要りません — Pro から自動でオンになり、ダイジェストの中にカードで届きます。検索はダッシュボード上部からいつでも。動画のタイトルではなく、中身で検索してみてください — 「金利が債券価格に与える影響」のように、文章で投げて大丈夫です。

よく投げる質問ができたなら、検索を保存しておいてください。保存した検索はワンクリックでいつでも再実行できます — 同じテーマを掘り続けているなら、ノートが積まれるたびに、同じ質問への答えが厚くなっていくのが見えるはずです。

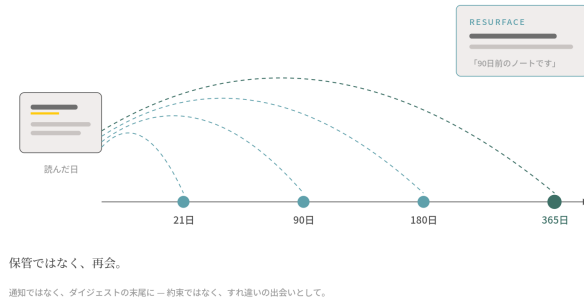


図5・再会の間隔 — 忘れた頃に、一度ずつ戻ってきます。

✓儀式をひとつ。再会カードに出会ったら、10秒だけ立ち止まること。「これ、覚えていたか？」 — その一度の自問が、ノートを保管物から知識に変えます。

第6章 — ひと月の終わりに、1冊の本

Max

毎月1日の朝、Kindle のライブラリに本が1冊入っています。表紙には先月の年月。目次を開くと、この1ヶ月に届いたノートたちがトピックごとの章にまとまっています。通勤電車で、機内で、ネットのない場所で — この1ヶ月のあなたが、1冊で読み返せます。

月末に「今月、何を学んだだろう」と自問してみればわかります。毎日確かに何かを見ていたのに、答えは霞んでいます。1日単位のインプットは、積もっている間は見えません。どこかで一度、束ねて返してもらう必要があります。その単位として私たちは「1ヶ月」を、その形として「本」を選びました。

広告も要約もない1冊を作った決定たち。月刊の合本には、ノートの要約版ではなく本文の全文が入ります。合本の使いどころは流し読みではなく読み返しであり、読み返しはオフラインで途切れてはいけなからです。広告やおすすめコンテンツの類もありません — この本の材料はすべて、あなたが選んだチャンネルから来たもので、そこに私たちが挟み込むものは何もありません。フォーマットが EPUB なのも同じ理由です。ウェブページは流れていきますが、本は端末の本棚に収まります。ここに PDF 版をもう1着重ねました — reMarkable・Boox・Supernote のように、固定レイアウトのほうが楽な e-ink 端末のために。同じ1冊を、端末の好む姿でお届けします。

最初の1冊を、加入直後にお届けする理由。 Max にご参加いただいたら、翌月1日まで待たせず、先月ぶんの合本をすぐにご送ります。ただし先月の解析動画が5本未満の場合は、1冊にまとめるには薄すぎるので、最初の1冊を翌月に延ばして、その旨をご案内します。

装丁をノートと同じトークンで揃えた理由。 蛍光ペン、コールアウト、タイムスタンプ、フッターのスローガンまで — 合本は、あなたが毎日見てきたノートと同じ服を着ています。「自分のノートが本になった」という感覚は、ディテールの一貫性から生まれます。いまお読みのこの別冊も、同じシステムで作られています。

Max プランで自動的にオンになります。毎月1日の朝(06:00 KST 基準)に新しい合本が EPUB・PDF の2版で作られ、メールへ、そして接続済みの Drive・Dropbox・Kindle へ同時に届きます。過去の号はダッシュボードの合本ライブラリ(ebooks)からいつでも再ダウンロードできます。本文が特に厚い月は、メール添付の代わりにダウンロードリンクで届きます。

1年経てば、12冊です。本棚に並んだ12冊の自分 — この体験が、Stacktube の目指す到達点です。

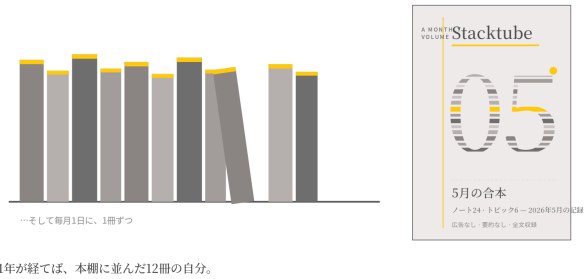


図6・本棚の1年 — 毎月1日に1冊ずつ、12冊の自分。

✓儀式をひとつ。毎月最初の週末、目次だけでも開くこと。目次は、この1ヶ月のあなたが書いた自己紹介文です。

付録 — リファレンス

A. プラン比較表

基準: 2026-07 (Companion 1.1)。最新の価格・上限は
stacktube.io の料金ページが優先します。

	Starter	Pro	Max	Unlimited
価格 (月)	無料	\$7.99	\$19.99	\$5.99
価格 (年払い時の月額)	—	\$5.99	\$14.99	\$4.99
AI キー	管理型	管理型	管理型	自分のキー (BYOK)
登録チャンネル	2	7	15	無制限
月間解析上限	10回	50回	150回	無制限
自動モニタリング	週1回・1チャンネル	毎日・全チャンネル	毎日・全チャンネル	自分で設定・全チャンネル
ノートの行き先	ウェブ・メール	+ Obsidian・Drive・Dropbox・Kindle・E-ink	同左	同左
Cross-video search	—	✓	✓	✓
Library (Timeline/Cluster/Stack)	✓	✓	✓	✓
Resurface (21/90/180/365日)	—	✓	✓	✓
Drive Stacktube INDEX / Obsidian Hub	—	✓	✓	✓
月刊ムック誌 EPUB・PDF	—	—	✓	—
優先処理キュー	—	—	✓	✓

ご登録から7日間、Pro の機能を無料でお試しいただけます。

Unlimited は、自分の AI API キーでチャンネル・解析の上限なく使うパワーユーザー向けプランです。AI コストを自分で負担する代わりに、使用量に上限がありません。月刊ムック誌の自動発行は、いまのところ Max の役目です。

B. セキュリティ、1ページで

あなたのノートとキーの扱い方について、原則だけを抜き出します。

- 分離。すべてのデータはユーザー単位で分離されています(データベースの Row Level Security)。他のユーザーのノートに届く経路はありません。
- 暗号化。連携に使う OAuth トークンと API キーは、AES-256-GCM で暗号化して保管します。キーを平文で置かず、ログにも残しません。
- 認証と制限。すべての API リクエストは最初の行で認証を検証し、過剰なリクエストは rate limit で遮断します。
- 決済。決済は Paddle (Merchant of Record) が処理します。カード情報は Stacktube のサーバーを経由せず、決済 webhook は署名検証を通過したものだけが反映されます。
- エラー。エラー応答は、内部情報を取り除いてから外に出します。

Obsidian プラグイン用の API キーは、発行時点以降サーバーには SHA-256 ハッシュのみで保管され、万一漏えいしても原文の復元はできません。キーは設定からいつでも失効・再発行できます。

C. FAQ

1. チャンネル URL はどの形式で入れればいいですか？

`youtube.com/@チャンネル名`、`/channel/ID`、`/c/チャンネル名` のいずれにも対応しています。チャンネルページの URL をそのまま貼り付けてください。

2. Starter の自動モニタリングの範囲はどこまでですか？ チャンネル1つを週1回自動解析し、週間ダイジェストでお届けします。毎日 + 全チャンネルの自動モニタリングは Pro からです。

3. 無料でどこまで使えますか？ Starter (無料) で月10本まで解析できます。ご登録から7日間は Pro の機能を無料でお試しください。

4. 解析が失敗したのはなぜですか？ 字幕のない動画か、AI API の一時的なエラーの可能性があります。再試行しても繰り返す場合は、ヘルプページからバグ報告をお送りください。部分的にしか完成しなかったノートには再解析ボタンがあり、既存の解析を再利用してノートだけを低コストで作り直せます。

5. 同じ動画を二度処理しますか？ いいえ。video ID 基準で重複を防ぐため、同じ動画は1回だけ処理されます。

6. 動画の長さに制限はありますか？ 60分以内の動画のみ解析されます。それより長い動画は自動的にブロックされます。

7. Pro では何が変わりますか？ 毎日の自動モニタリング、月50回の解析、全出力先(メール・Obsidian・Drive・Dropbox・E-ink・Kindle)、Cross-video 検索が開きます。

8. Obsidian 連携はどうやりますか？ 公式コミュニティプラグイン(StackTube)をインストールし、設定 → Obsidian で API キーを発行してプラグインに貼り付けると、vault へ自動同期されます。Pro からご利用いただけ、7日間の Pro トライアル中も開きます。クラウドフォルダ経由の方式とは、どちらか一方だけをお選びください。プラグイン 0.2.0 からは、動画の一場面をノートに直接キャプチャでき、その画像はサーバーではなくあなたの vault にのみ保存されます。

9. E-ink タブレットで読めますか? Kindle・reMarkable・Boox・Supernote に対応しています。Kindle は Send-to-Kindle で自動送信、Boox・Supernote は端末の Drive/Dropbox 同期で受信します。reMarkable は自動送信 API がないため、設定ページで3つの方法をご案内しています。月刊ムック誌は EPUB と PDF の2版で提供されるので、固定レイアウトが楽な端末では PDF をお選びください。

10. 返金はどうすればいいですか? サブスクリプション管理ページから解約できます。その他のお問い合わせは studio@unstackd.io までご連絡ください。

11. Unlimited (BYOK) プランとは何ですか? 自分の AI API キーを登録し、チャンネル・解析の上限なく使うパワーユーザー向けプランです。AI コストはご自身で負担する代わりに、使用量に上限がありません。キーは設定 → BYOK で登録し、AES-256 で暗号化して保管されます。月刊ムック誌の自動発行は、現在は Max の機能です。

D. 連携別 3ステップ設定

Obsidian (公式プラグイン) 1. Obsidian → 設定 → コミュニティプラグイン → 「StackTube」を検索 → インストール・有効化 2. Stacktube の設定 → Obsidian タブで API キーを発行 3. プラグイン設定にキーを貼り付け → 同期フォルダを指定 → Sync — 0.2.0 から: ノートで動画の一場面を直接キャプチャできます(画像は vault にのみ保存)。

Google Drive 1. 設定 → 連携 → Google Drive 「接続」 2. Google アカウントで承認 (OAuth) 3. 完了 — 新しいノートが Stacktube/ フォルダへ自動保存されます

Dropbox 1. 設定 → 連携 → Dropbox「接続」 2. Dropbox アカウントで承認 (OAuth) 3. 完了 — 新しいノートが `Stacktube/` フォルダへ自動保存されます

Kindle 1. Amazon の Send-to-Kindle 設定で、承認済み送信者に Stacktube の送信アドレスを追加 2. Stacktube の設定 → 連携にご自身の Send-to-Kindle アドレス (@kindle.com) を入力 3. 完了 — 新しいノートが PDF として Kindle ライブラリに届きます

Boox・Supernote (E-ink) 1. 先に上記の Drive または Dropbox 連携をオンにします 2. 端末側で同じ Drive/Dropbox アカウントの同期を設定 3. 完了 — 端末がフォルダを自動受信します

reMarkable 1. 設定 → 連携の reMarkable ガイドカードを開きます 2. 3つの方法 (Connect 加入者の Drive/Dropbox ミラーリング・Read on reMarkable 拡張・手動アップロード) からひとつを選びます 3. 案内どおり1回設定すれば、以後は同じ流れの繰り返しです

エピローグ — 作った人のノート

Stacktube は、ひとりのメイカーが作っています。企画も、コードも、この本の文章もです。

1年近く、作る過程を公開してきました。解析パイプラインが壊れた日の記録も、Obsidian コミュニティプラグインがディレクトリに掲載された日の記録も残っています。ひとりで作るサービスの弱点ははっきりしています — 遅いことです。その代わり、ひとつだけお約束できます。このサービスのすべての決定には決めた人間がいて、その人間に直接届く、ということ。ヘルプページのフィードバックは、すべて私が読んでいます。

この本に書いた決定は、2026年7月時点のものです。サービスは変わり続け、いくつかの決定は誤りだったと判明して覆るでしょう。そのときは、この本も改訂版として作り直します。表紙のバージョン番号が、その約束です。

動画は流れていくけれど、知識は、積み上がる。あなたの本棚が厚くなっていきますように。

— unstackd.io

奥付

Stacktube の読み方 — The Stacktube Companion Companion ·
1.1 · 2026-07 (改訂版)

月刊ムック誌シリーズの別冊 (0号) として、本誌と同じデザインシステムで作られました — 表紙は月刊号の意匠の別冊カラー変奏、本文はノートと同じ蛍光ペン・コールアウト・タイムスタンプ・章ディバイダーのトークンを使っています。原稿は Markdown で書かれ、EPUB と PDF にビルドされました。

1.1 では、ノートの場面埋め込みと  ディープリンクマーカ、Obsidian のフレームキャプチャ(プラグイン 0.2.0)、月刊ムック誌の PDF 版、そして Unlimited (BYOK) プランを反映しました。機能に意味のある変更があれば、改訂版 (1.2, 1.3 ...) を changelog とともに発行します。この版の内容と実際のサービスが異なる場合は、サービスのほうが新しい状態です。

stacktube.io · unstackd.io

動画は流れていくけれど、知識は、積み上がる。

Companion · 1.1 · 2026-07

動画は流れていくけれど、知識は、積み上がる。